

「北陸4大学連携まちなかセミナー」

「北陸発のふ・る・さ・と探訪」

入場
無料

●富山会場

歴史的建造物・町並み

日時 11月17日(土) 14時~16時

会場 富山駅前CIC 3F
(富山市新富町1-2-3)

講師 安達 實(金沢大学工学部 非常勤講師)
「城下町金沢の惣構堀」
福井 宇洋(福井大学大学院工学研究科 助教)
「歴史的建造物を
群として次代に伝える」

お問合せ 富山大学生涯学習教育研究センター
電話076-445-6956 FAX076-445-6960

●金沢会場

北陸の地下構造と地震

日時 11月3日(土・祝日) 14時~16時

会場 金沢大学大学教育開放センター
(金沢市角間町)

講師 渡邊 了
(富山大学大学院理工学研究部 准教授)
「日本列島の成り立ちと
北陸の地震」
山本 博文(福井大学教育地域科学部 准教授)
「活断層と福井地震、
能登半島地震」

お問合せ 金沢大学大学教育開放センター
電話076-264-5272 FAX076-234-4045

●福井会場

ふるさとの歴史

日時 11月23日(金・祝日) 14時~16時

会場 福井大学地域共同研究センター
(福井市文京3-9-1)

講師 鈴木 景二(富山大学人文学部 教授)
「北国街道『道中記』拾い読み」
笠井 純一(金沢大学文学部 教授)
「継体天皇とその時代」

お問合せ 福井大学総務部評価課地域連携係
電話0776-27-8060 FAX0776-27-8878

「まちなかセミナー」は「福井大学地域貢献事業支援金」の一部助成を得ています。



立山

東尋坊

北陸発、知的探求の旅。
この秋、北陸3県にて実施。

大学とは何をすることでしょくか？
教育、研究、それだけではありません。
地域の皆さんの多様な生涯学習ニーズ
に応えることも大学の大事な使命です。
富山大学、金沢大学、福井大学、北陸先端
科学技術大学院大学共催で、「知」との出
会いの場を提供することになりました。

兼六園

北陸発のふ・る・さ・と探訪

開催日順

金沢
会場金沢大学大学教育開放センター
(金沢市角間町)●日時 平成19年11月3日(土・祝日)
14:00~16:00

●テーマ 『北陸の地下構造と地震』

講演①「日本列島の成り立ちと北陸の地震」 講師 渡邊 了(富山大学大学院理工学研究部 准教授)

要
旨

3月の能登半島地震、7月の中越沖地震と、今年はたて続けに日本海側で地震が起きました。日本海側は太平洋側に比べて地震が少ないという印象がありますが、被害地震の記録は、1948年の福井地震をはじめ決して少なくありません。北陸の地形をよく見てみると、わたしたちの住んでいる土地が、地震すなわち断層の動きによって形づくられたものであることがわかります。これらの断層の多くは、日本列島の形成に伴ってできた古傷だと考えられています。講演では、北陸の地震の特徴を、日本列島の成り立ちと現在のプレート運動の両面から解説する予定です。

講演②「活断層と福井地震、能登半島地震」 講師 山本 博文(福井大学教育地域科学部 准教授)

要
旨

2007年3月25日に発生した能登半島地震では、多くの建物が崩壊し、海岸部では最大で40cmもの隆起が認められました。1948年の福井地震では死者3,769名におよび、最大で2mの横ずれ変位が計測されました。私たちの足下にはこのような地震を起こしうる活断層が隠れているかもしれません。では活断層はどのようにして調査されるのでしょうか。どのくらいの活断層が知られているのでしょうか。また活断層調査による地震の長期予知とはどのようなものなのでしょうか。今回のセミナーでは、福井地震、能登半島地震を中心に活断層について紹介してゆきたいと思えます。

富山
会場富山駅前CiC 3F
(富山市新富町1-2-3)●日時 平成19年11月17日(土)
14:00~16:00

●テーマ 『歴史的建造物・町並み』

講演①「城下町金沢の惣構堀」 講師 安達 實(金沢大学工学部 非常勤講師)

要
旨

城下町金沢には、用水が網の目のように走っており、その数55、延長は150kmになります。その中で金沢城の外堀として藩政初期に造られた惣構堀(そうがまえぼり)があり、金沢城を二重に取り囲んでいました。この堀は城および城下町を守るために築かれたものです。金沢は戦災や大きな自然災害を受けることなく現在に至っており、わが国有数の都市遺産として、市民生活や都市景観に大きな影響を与えてきました。今回この堀について発表します。

講演②「歴史的建造物を群として次代に伝える」 講師 福井 宇洋(福井大学大学院工学研究科 助教)

要
旨

優れた歴史的建造物を保存する営みは古くから行われてきました。30年ほど前からそれらを単体として残すばかりでなく、群として集合体としての時代に伝えていこうとする試みが始まりました。富山県では五箇山の合掌集落や高岡の町並み、石川県では金沢の茶屋町など、福井県では若狭鯖街道熊川や小浜の町並みなどがその対象とされて保存事業が進められています。ここでは私がかかわった熊川の事例を中心にお話しします。

福井
会場福井大学地域共同研究センター
(福井市文京3-9-1)●日時 平成19年11月23日(金・祝日)
14:00~16:00

●テーマ 『ふるさとの歴史』

講演①「北国街道『道中記』拾い読み」 講師 鈴木 景二(富山大学人文学部 教授)

要
旨

古い街道という東海道や中仙道が有名ですが、北陸にも北国街道という由緒ある街道がありました。その道筋を訪ねてみると、いまでも宿場の家並みや峠の風景に江戸時代以来の面影を残しています。こうした史跡を探訪するとき、昔のひとの書き残してくれた『道中記』に目を通していくと、よりいっそう当時の人に近づくことができるでしょう。また『道中記』には、それ以上に旅行記としての面白さもあります。その史料と現地の様子を紹介して、その一端に触れていただきたいと思います。

講演②「継体天皇とその時代」 講師 笠井 純一(金沢大学文学部 教授)

要
旨

継体天皇(~531年)は、越前もしくは近江から出て、大和政権の大王位に就いたと伝えられています。このセミナーでは、継体が王位を継承した6世紀頃の時代背景にからめ、皇位継承儀礼の成立過程を中心にお話ししたいと思います。

- その他 (1) 事前の申し込みは必要ありませんが、資料の準備等の関係から、参加ご希望の際は、表面の問合せ先に電話、FAX等でご旨ご一報いただけますと幸いです。
(2) なるべくバス、電車等の公共交通機関をご利用くださるようお願いいたします。